

院長 石垣 邦彦
(たまごビル)



クスリの副作用で「このち」を失わないために (58)

高血圧にクスリを飲まずに 対処する方法 (27)

前回、原因から高血圧に対処する必要性を述べました。

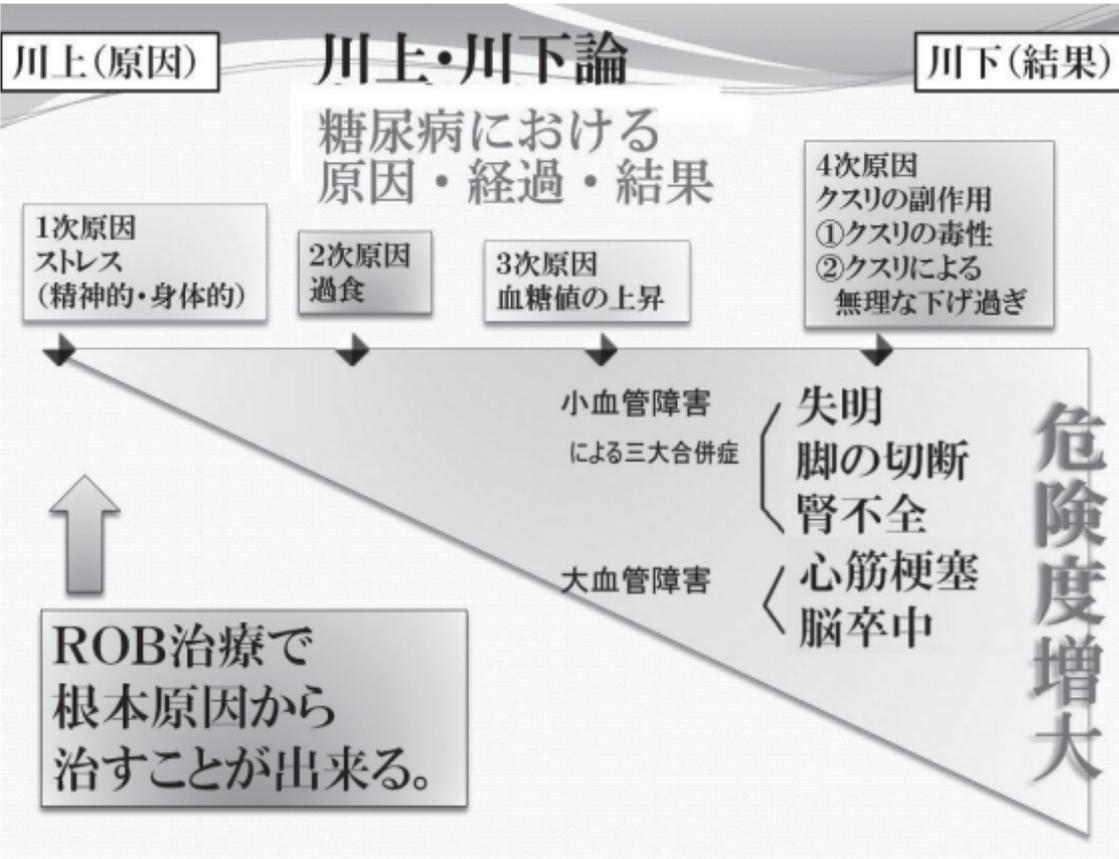
しかしながら、原因から高血圧に対処する必要があるにもかかわらず、「高血圧 生活習慣の修正項目」(高血圧治療ガイドライン 2009 日本高血圧学会)では以下の記述する「しくみ」が原因が考慮されていないのです。

その「しくみ」とは、「上腹部の柔軟性」がなくなり「上腹部」が固くなる↓横隔膜の上下動の幅が狭くなる↓「体腔の変動圧」が小さくなる↓体液の対流・循環↓血液循環が低下する↓60兆の細胞に血液が行きわたらない↓血液を行きわたらせるために血圧が上がる。という「しくみ」が原因が、現代医学の高血圧治療では、まるっきりぬけてしまっているのです。

これはゆゆしき問題です。血圧が上がるおおもとにある原因を除去せずに、その人の「からだ」に必要な高血圧の状態だけを無理やり下げるために、「からだ」に必要な血液が行きわたりません。これでは「からだ」がスムーズに働かなくなるのです。

そのため、血圧のクスリを飲まれた方が10倍も死亡率が高くなるというような怖い事実が生じるのです。

高血圧を含むどんな慢性疾患でも、川上の原因から除去する必要があります。川上・川下論をごらんください。今回はこの図からご説明させていただきます。医療が変わります。人生が変わります。



体の「しくみ」を生かした「生き方」 (97)